

ゼロからはじまる、無限の創薬力

 GENE TECHNO SCIENCE

MOthers 証券コード:4584

株式会社ジーンテクノサイエンス

2013年3月期 決算説明会

2013年5月17日

- 決断～攻めの医薬品開発に向けて -



GENE TECHNO SCIENCE

最重点戦略: バイオ後続品でCash Cowを次々と生み出す!

《バイオ後続品とは》

1. 5~6年で上市が可能(新薬は10~15年)
2. 先発品の特許切れに合わせて上市できるスピードが命
3. 副作用などで開発が中止になるリスクが小さい



開発スピードの面では小規模でも十分に戦える



バイオ後続品開発を果敢に進め、
Cash Cowを次々に創出!!



バイオ後続品の市場規模

バイオ後続品のグローバル市場(当社概算)

||

バイオ医薬品の
市場規模(5年後)
15兆円

×

バイオ後続品
普及率
50%

×

先発品との薬価比
70%

≦

約5兆円

この巨大マーケットの制覇に向けて！！

前期(2013年3月期) 貸借対照表・損益計算書 ハイライト

(単位:百万円)

■貸借対照表ハイライト

	2013/3期 実績
現金及び預金	887
資本金	1,239
純資産額	888
総資産額	922

2012年11月の
マザーズ上場による
783百万円の資金調達

■損益計算書ハイライト

	2013/3期 実績
売上高	60
研究開発費	206
営業利益	△358
経常利益	△373
当期純利益	△377

2012年11月のG-CSF承認
から今期の販売開始
までの端境期

今期(2013年度) B/S・P/L ハイライト

■貸借対照表ハイライト

(単位:百万円)

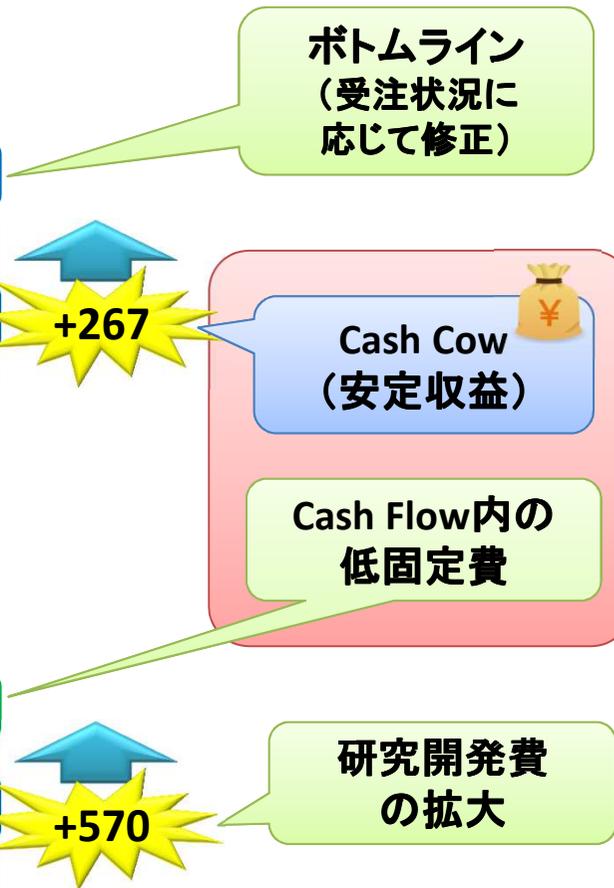
	2013/3期実績	2013/5/1ウイズ払込後
現金及び預金	887	2,087



■損益計算書ハイライト

(単位:百万円)

区分		2013/3期実績	2014/3期予想
バイオ後続品事業	売上高	60	301
	研究開発費	182	700
	損益(税引前)	△137	△574
G-CSF	売上高	30	297
	研究開発費	138	—
	損益(税引前)	△108	121
G-CSF以外	売上高	29	4
	研究開発費	43	700
	損益(税引前)	△28	△696
バイオ新薬事業	売上高	—	—
	研究開発費	23	76
	損益(税引前)	△23	△76
間接部門	損益(税引前)	△212	△236
全社	売上高	60	301
	研究開発費	206	776
	損益(税引前)	△373	△888



迅速な研究開発による先手必勝

研究開発費予算 776百万円

バイオ新薬事業: 76百万円
基盤技術やシーズを積極的に導入

バイオ後続品事業: 700百万円

◆ G-CSFおよびPEG-G-CSFの米国開発・アジア展開

(参考) 2012年の全世界売上高

NEUPOGEN (G-CSF) : 1,260 M USD

Neulasta (PEG-G-CSF) : 4,092 M USD

(Source; Amgen Annual Report in 2012)

5,000
億円

◆ 4品目+αのバイオ後続品の開発

(参考) ターゲットとしている市場規模は1,000 M USD以上

1.5
兆円

GTSが狙う
市場の規模
2兆円

×

バイオ後続品
普及率
50%

×

先発品との
薬価比
70%

= 7,000億円

X% / 7,000億円



ジーンテクノサイエンス
のマーケット

事業戦略(今期の目標)

G-CSF および
PEG-G-CSF



- ✓ 米国での自社開発を検討中
- ✓ アジア数社との提携を今期中に目指す

4つのバイオ後続品
+他パイプライン



- ✓ 複数社との共同開発の推進
- ✓ 国内外複数社との提携を今期中に目指す

バイオ新薬



- ✓ 複数社との共同研究の推進
- ✓ アカデミアとの提携を目指す
- ✓ バイオベンチャーを含めた複数社との提携を目指す

事業開発力の強化(ウィズ・パートナーズの参画)

◆ 飯野智

2013年 株式会社ウィズ・パートナーズ シニアマネージング・ダイレクター兼執行役員兼投資運用部長就任(現任)

2012年 ナノキャリア株式会社 取締役(現任)

2010年 株式会社ウィズ・パートナーズ マネージング・ダイレクター

2004年 同社取締役

2000年 CSKベンチャーキャピタル(株)

1989年 株式会社日立製作所 入社

日立製作所在職中は工場資材部勤務以降、Hitachi America(SF)-本社国際調達部で海外企業からの戦略的なIP(Intellectual Property)調達に一貫して従事。コンピュータ、通信、半導体、宇宙・防衛分野で、Microsoft, Qualcomm, Oracle, CISCO等の大手IT企業をはじめ、シリコンバレーを中心とする欧米のハイテクベンチャーからの技術ライセンス、共同開発、事業・資本提携等のプロジェクトに本社スタッフとして関与し、7年間で約150本の契約をまとめた。CSKベンチャーキャピタルに入社以降、当初2年間は海外のIT投資を担当し、その後2002年より9年間に渡りバイオ・ライフサイエンス分野の国内外の投資を中心に担当した。

主要担当案件: オンコセラピー・サイエンス(社外取締役)の上場、Crystal Genomics [韓国](社外取締役)、ViroMed [韓国]、Tessera [USA] を手掛けた。

◆ 藤澤朋行

2012年 株式会社ウィズ・パートナーズ マネージング・ダイレクター(現任)

2012年 株式会社ウィズ・パートナーズ エグゼクティブアドバイザー

2011年 武田薬品工業株式会社医薬研究本部 研究アライアンス室 室長

2008年 武田薬品工業株式会社事業開発部医薬ライセンス シニアマネージャー

2005年 武田薬品工業株式会社事業開発部医薬ライセンス

2001年 武田薬品工業株式会社医薬研究本部研究戦略室

1992年 武田薬品工業株式会社医薬研究本部 研究職

主要担当案件: 武田ベンチャー投資(株)を米国に設立、バイオベンチャー シリックス社を統合、日本法人アムジェン株式会社の統合、他十数件のライセンス、研究提携案件を手掛けた。

◆ 谷匡治

2013年 株式会社ウィズ・パートナーズ ダイレクター

2010年 武田薬品工業株式会社事業開発部医薬ライセンス

2009年 武田薬品工業株式会社製品戦略部

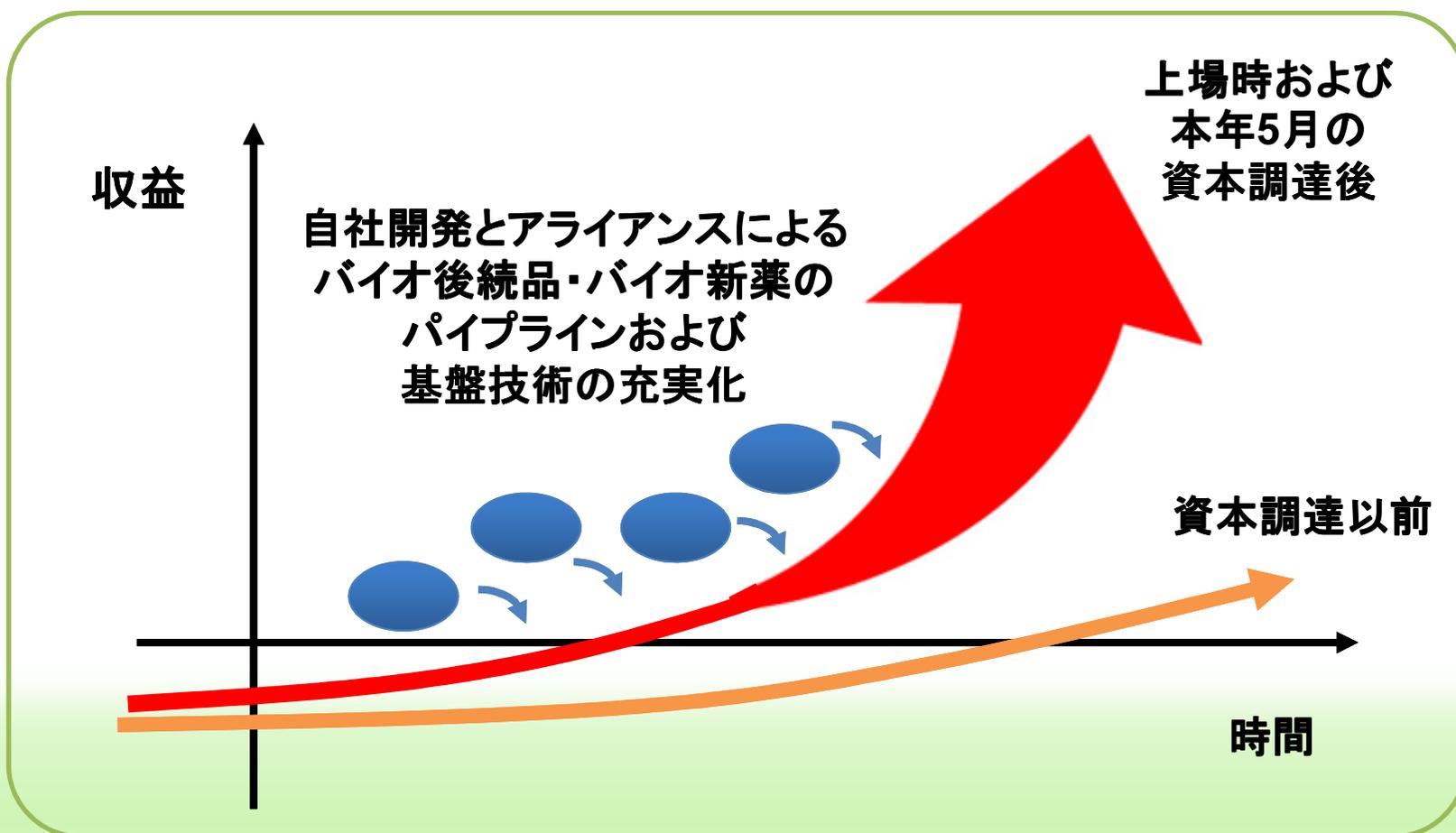
2006年 武田薬品工業株式会社事業開発部医薬ライセンス

2000年 サントリー株式会社医薬事業部 臨床開発部

主要担当案件: トビラ社への導出、日本法人アムジェン株式会社の統合、Millennium社の統合、他ライセンス・共同研究提携案を数十件手掛けた。

上場時からのエクイティストーリーの変化

優良パイプラインの安売りから
価値を高めて売るステージへ





ご注意事項

本資料は投資家の参考に資するため、株式会社ジーンテクノサイエンス(以下、弊社)の現状を理解していただくため作成したものです。

本資料に記載された内容は、現時点で一般に認識されている経済・社会の情勢及び弊社が合理的と判断した前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。



お問い合わせ先

管理部

TEL 03-3517-1353

ゼロからはじまる、無限の創薬力